

音楽科研究部会

I 研究テーマ

「私の音楽 みんなで音楽」

～音楽を形づくっている要素を感受し 自ら広げる音楽の世界～

II 研究テーマ設定の理由

音楽科においては、子どもたちが楽しく進んで創造的に音楽活動に関わりながら、音楽の喜びを体得し、生涯にわたって音楽に親しむことができるよう研究を進めている。

子どもたち一人一人の主体的な音楽活動を支えているのは、「楽しく音楽活動をしようとする」「進んで音楽活動をしようとする」「創造的な音楽活動をしようとする」などの心の働き（興味・関心）である。活動の結果得られる成就感や満足感を支えるのもこの心の働きである。これらの心の働きを高めると共に、音楽活動の基礎的な能力を培うことで、より豊かな音楽の力を確実に身に付けていくことができる。そして、これらの学習活動の積み重ねにより、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性が育ち、基礎的な能力が培われ、やがて豊かな情操が養われていくと考えられる。学習指導要領の改訂にともない、子どもたちが主体的・創造的に、生き生きと音楽活動に取り組み、音楽科で身に付けさせたい力を「音楽を聴く力」「音楽を表現する力」「音楽を合わせて楽しむ力」とし、これらの力を確実に身に付けていくことが、生涯にわたって音楽を愛好していく子どもの育成につながると考えた。そのための授業の工夫・改善と、子どもたちが創意工夫しながら、表現力を表出する姿を目指して研究を行ってきた。

III 研究の経過と内容

今年度小学校部会では、低・中・高3つのブロックに分かれ、それぞれ授業研究、他ブロックや中学校の授業参観、個々の部員の実践を持ち寄り検討する実践研究を行った。また、歌唱領域の講習会を実施し、様々な内容で研究を進めてきた。

- 4月11日 第1回甲教協部会研究会（研究テーマ、研究組織の決定）
- 5月14日 第2回甲教協部会研究会（研究計画）
- 6月18日 第3回甲教協部会研究会（ブロック研究会）
- 7月31日 第4回甲教協部会研究会（「歌唱指導講習会」西澤健治先生）
- 8月16日 第5回甲教協部会研究会（ブロック研究会）
- 9月 3日 第6回甲教協部会研究会（高学年ブロック授業研究会）
- 10月 1日 第7回甲教協部会研究会（中学校の授業研究会参加）
- 11月 5日 第8回甲教協部会研究会（低・中学年ブロック授業研究会）
- 1月21日 第9回甲教協部会研究会（研究のまとめと次年度の方向性の確認）

1 小学校低学年ブロック

(1) ブロック研究テーマ 「低学年における歌唱の表現力を高める授業の工夫」

(2) 研究の成果と課題

今年度は、小中学校9年間を見通して研究が進められ、研究授業も歌唱領域に統一し、お互いに参観し合うことができたので大変有効であった。また、研究授業に向けて、教材選択・指導計画・評価・ねらいについての研究を全員で積極的に取り組み、互いの実践を生かしながら指導案作りを進めることができたことは大きな成果であった。

研究授業は1年生の学級で行われ、多くの成果を得ることができた。まず、1年生の発達段階では、自分の思いを隠すことなく表現できる時期であり、素直に歌ったり、言葉で表したりすることができていて良かったことや、常に子どもたちに「どうして？」と問いかけ、音楽の要素に着目させながら、言葉を選ばせ1年生なりの理由づけができていたことなどが評価された。

課題としては、話し合いの後、歌ってみることが重要であること。“音”を介して、思いと表現をつなげていくことが大切であるので、その為にも1年生であっても歌唱の技術を伸ばしてやることが重要であることなどがあげられた。

今年度の研究を踏まえ、来年度は、つきたい力を明確にし、どのようにねらいを達成させるかということをしっかり持った授業を行っていきたい。また、系統性を考えながら、積み重ねていくもの・スパイラルに反復していくものなどを洗い出して、効果的に授業に取り入れていく必要性を感じた。

2 小学校中学年ブロック

(1) ブロック研究テーマ ～音楽の仕組み「問いと答え」の授業をどう進めるか～

(2) 今年度の成果と課題

今年度のブロック研究では、部員一人一人が、「宿題」と銘打って、部員それぞれが、自校で実践をしてみたというところに意義がある。教材の選択をし、次に教材が決まったところで、「あなたの夢は」(二本松 はじめ/作詞・作曲)の楽曲を部員がそれぞれのクラスで児童に歌わせて、「問いと答え」について考えさせた。その様子を授業者の先生にメールやファクスで届け、授業者が参考にした。このように、部員一人一人が関わったことは価値がある。次に、テーマを考える時に、音楽の要素についてはいろいろと研究がなされているので、新たな取り組みとして、独自のテーマを「音楽の仕組み」の「問いと答え」に視点を当てたことは、とても良かった。授業研では、講師の先生からも、「問いと答え」の導入として素晴らしい授業提案だったと評価された。対になって現れてくるものが、音楽を良いものになっているということが分かる授業であった。児童の様子も活発で、発言が明確で児童が楽しく学習しており、言語活動も豊であった。教材研究が良くなされ、授業の流れもできており、今までの積み重ねがしっかりできていた。授業者の深澤先生の日頃の積み重ねの素晴らしさを感じた。

課題としては、中学年ブロックのテーマができたのが9月だったので、もう少し早く取り組めれば良かったと思う。せめて6月までに、方向性が出たら、夏休みも利用しながら、もう少し、ゆとりをもって研究することができたはずであった。今後も研鑽を積んでいきたい。

3 小学校高学年ブロック

(1) ブロック研究テーマ 「思いや意図を持って表現が工夫できる授業の工夫」

(2) 研究の成果と課題

高学年の歌唱の活動では、歌唱・視唱の能力、音楽を感じ取って歌唱の表現を工夫する能力、楽曲に合った表現の能力、声を合わせて歌う能力を育むことが指導のねらいとなる。これらのねらいを実現するために提案授業では、歌うことが好きという児童の気持ちを大切にしながら、児童が意欲を持って取り組んでいた歌唱活動の実践であった。このような歌唱の活動の中で授業者は、歌う喜びを味わい、歌うことを通して音楽の豊かさに触れるような指導を行っており、すばらしい授業提案であった。以下、授業後の話し合いで明らかになった成果、3点を示す。

- ①全ての児童が「表現の工夫」ができるように、単元計画をスモールステップで構成。
- ②児童が、自分の心の中の様々な思いや考えを明確に友達に伝えていくことができるよう「音楽を形づくっている要素」に関する言葉を音楽の言葉として提示。
- ③表現の支えとなる歌い方を身につけさせたり、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、自分の声を友達の声と調和させて歌ったりする継続的な指導。

課題としては、今後、小中連携の視点で授業案を書くことも大切かと思われる。本研究で扱った題材は、中学校学習指導要領、第1学年の目標「多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を育てる」に通じ、内容A表現(1)ア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して行うこと」につながるものである。このように指導案の中に小中連携の記述をしていくことで、指導の系統が指導者に意識できるのではないかと考える。

IV 研究の成果と課題

今年度は特に領域を“歌唱”に統一し、各ブロックで研究を進めて小学校3つ中学校1つの授業研究を行った。互いに参観し意見交換することで、各発達段階で身につけるべき力やそのための指導の手立てについて研究を深めるとともに、小中9年間の系統性をきちんと捉えて積み重ねていくことの重要性をあらためて考えさせられる研究内容だった。たくさんの授業研究会に参加することでブロックの指導案検討などにかかる時間が少なくなってしまうことや、小中の交流の在り方には課題があるものの、音楽科においても、ねらいに沿った学習活動を展開していくことで“学力”を身につけさせることが出来ること、そしてそれが「生きる力」につながることをお互いに確認できた一年間だった。